

とちぎの弥生土器

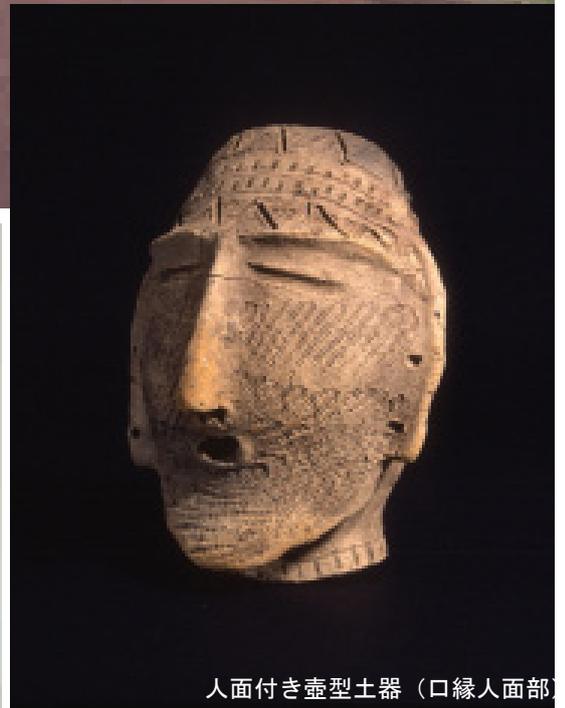
期間：平成22年7月30日(金)～10月15日(金)

場所：県庁本館2階県民プラザ前ガラスショーケース

大塚古墳群内遺跡調査風景



土坑墓出土土器



人面付き壺型土器（口縁人面部）



人面付壺形土器出土状況

大塚古墳群内遺跡と人面付土器

大塚古墳群内遺跡は、栃木市大塚町にあります。弥生時代中期後半の土坑墓13基と掘立柱建物跡と考えられる柱穴列が4棟確認されました。

人面付き土器は楕円形の土坑墓（170×100cm）の北側から横向きで発見され、上面からは140点もの打ち欠かれた弥生土器の破片が出土しています。

人面付土器は、1つの遺跡から1個だけ出土することが多いことから、特別な人物の墓だけに納められたもので、死者の安らかな眠りを願ったと考えられています。再葬墓同様、弥生時代中期の中部から東北地方南部で多く出土しており、栃木県では大塚古墳群内遺跡のほか、佐野市出流原遺跡・宇都宮市野沢遺跡で出土しています。

財団法人 とちぎ生涯学習文化財団 埋蔵文化財センター
〒329-0418 栃木県下野市紫474番地
TEL 0285-44-8441 FAX 0285-44-8445

清六Ⅲ遺跡と再葬墓

清六Ⅲ遺跡は栃木県の南端、野木町にあります。弥生時代中期前半の再葬墓は、遺跡の南西、思川低地に面した舌状台地の先端から19基確認されました。墓穴には1個から9個の土器が納められており、総数27個の土器（25個は壺形土器）と碧玉製の管玉5点が出土しました。

再葬墓とは、遺体をいったん埋葬して白骨化させたあと、その骨を再び壺形土器などの容器に入れて土坑（穴）に埋葬する葬法で、弥生時代前半の中部地方から東北地方南部に特徴的に見られます。土坑には、複数の土器が納められており、弥生時代の共同墓地とでも言えます。

同様の再葬墓は、ほかに佐野市出流原遺跡・上仙波遺跡・町屋遺跡、下野市柴工業団地内遺跡、鹿沼市戸木内遺跡、宇都宮市野沢遺跡などでも発見されています。



再葬墓



再葬墓



管玉



再葬の容器に使用された壺形土器（中期前半）

伊勢崎Ⅱ遺跡（真岡市）



弥生時代後期

五料遺跡（小山市）



古墳時代前期まで残る縄文の付いた土器

栃木県の弥生時代の遺跡と弥生土器

栃木県では7,000カ所ほど遺跡が存在しますが、弥生時代の遺跡はわずか130カ所ほどしか確認されていません。これらは、時期によりみつかるモノにはかたよりがみられます。古い時期には再葬墓や土器棺墓・土坑墓などのお墓が、新しい時期には竪穴住居跡などの集落跡が多くなります。今のところ県内では、弥生時代を象徴する水田跡や石包丁などの農耕具は見つかっていませんが、靱圧痕の付いた土器があることから、米作りは伝わっていたと考えられます。

栃木県の弥生土器は、貯蔵用の壺と煮炊き用の甕といった弥生時代特有の形をしています。しかし、使い勝手を重視し、薄手で模様が簡素な西日本の弥生土器とは異なり、縄文時代の代表的文様である縄文が施されているのが特徴です。

